

Effects of Telmisartan and Candesartan on the Metabolism of Lipids and Glucose in Kidney Transplant Patients: A Prospective, Randomized Crossover Study

三浦, 敬史

<https://doi.org/10.15017/2348725>

出版情報 : 九州大学, 2019, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : (C) 2019 The Author(s). Transplantation Direct. Published by Wolters Kluwer Health, Inc. This is an open-access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution-Non Commercial-No Derivatives License 4.0 (CCBY-NC-ND).

(別紙様式2)

氏名	三浦 敬史			
論文名	Effects of Telmisartan and Candesartan on the Metabolism of Lipids and Glucose in Kidney Transplant Patients: A Prospective, Randomized Crossover Study			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	江藤 正俊
	副査	九州大学	教授	小川 佳宏
	副査	九州大学	教授	馬場園 明

論文審査の結果の要旨

腎移植後の患者さんは長らく患ってきた腎不全の状態と免疫抑制剤の影響で多くが高血圧を呈する。そのため降圧剤を内服するが、腎保護作用を要する降圧剤であるアンジオテンシンⅡ受容体阻害剤(以下ARB)を服用することが多い。数あるARBの中でテルミサルタンはペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 γ (PPAR γ)作用を要するため理論上は血圧を下げるだけでなく、糖脂質代謝を改善することが期待され、免疫抑制剤の副作用でもある糖脂質代謝異常の発生を抑制する効果が期待できる。これを検証するためにテルミサルタンとその他のARBを代表しカンデサルタンを3ヶ月ごと服用してもらい、開始前と切り替え時期である3ヶ月と終了時の6ヶ月の時点で各種パラメーターを測定する、前向きなクロスオーバー試験を計画した。なお、計画時点から統計の専門家に介入いただき必要患者数を設定した上で、九州大学倫理委員会の承認後に患者同意の元に本試験を施行した。その結果、中性脂肪とeGFRにおいて統計学的に優位にテルミサルタンが良好である結果が得られた。腎移植後の降圧剤を選択する際に大いに参考となる結果であると考えられた。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、成績などについて説明を求め、各調査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについてもほぼ適切な解答を得た。よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。